



## 2016 謹賀新年

韓国・仁川 旧日本租界にて(2015年10月25日撮影)

### 真の「観光立国」へ向けて

代表取締役 高 允 男

ある日、一人会社で残業していたところ、若い女性が訪ねてきた。大きなキャリーケースを持っているので、どうやら旅行中のようだ。用件を尋ねると、今夜泊まるゲストハウスを探していると言う。日本語がたどたどしいのでどこから来たのか聞くと、韓国から来たとのこと。道に迷って困っているときに、KBSの「韓国語翻訳」の看板を見て入ってきたらしい。

KBSの周辺は普通の住宅地で、はて、そんな所があったかな？と思いつきながら、持っている旅行パンフレットを見ると、宿泊先の住所が書いてあり、確かにこの近くだ。スマートフォンで住所を検索してみると、果たして会社から200メートルほどの場所にそのゲストハウスは実在した。そこは細い路地に入った住宅地の中にポツンと、観光客がひとりではたどり着けそうもないような場所である。

こんな場所で海外観光客相手の商売が成り立つのかと驚

きながら、スマートフォンの画面を見せて道案内をしてあげると、その女性はありがとうございましたと頭を下げて、立ち去った。

ここ2~3年は、日本への観光客は増える一方で、2015年は2000万人を超えようかという勢いで、訪日外国人数が出国日本人数を追い越す見込みだ。まさに「観光立国」として変化を遂げようとしている。一方で、最近ホテル不足が深刻化しており、中にはラブホテルに泊まる観光客もいるとか。こんな住宅街にゲストハウスができるのも納得である。

観光客が旅行の時に頼るのは、当然観光パンフレットやウェブサイトである。今回小さな発見ではあるが、KBSができることはこれからますます増えてくるという思いを新たにしたい。真の「観光立国」へ向けて、KBSも小さな助力になれば幸いである。



2015年10月24～26日、土曜日から月曜日にかけて、韓国・仁川（インチョン）を訪問した。故高仁鳳（コウ インボン）会長の友人、張哲雄（チャン チョルン）さんに会って、話を聴くためだ。

## 官洞ギャラリー

——記憶をとどめ、創造を生む家に

インチョンは、今は韓国の空の玄関口として知られているが、昔から黄海に面した港町で、漢江の河口にあり、ソウルへの海の玄関口として栄えてきた。近代に入って、日本人租界、中国人租界、西洋人租界が形成された。いま歴史ある町並みは見直しが進み、再現・保存がなされ、活気づいている。

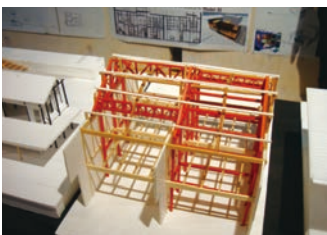
今回宿泊した官洞ギャラリーは、日本式家屋を改装したもので、戸田郁子さんという日本人女性が経営している。旧日本租界の中心にあり、旧地名は官洞（現在は中区新浦）だった。新しい地図から消えてしまう地名を記憶に留めるために「官洞ギャラリー」と名づけた。



ハリがむきだしの屋根裏は秘密基地のよう

戸田さん夫妻は歴史の香りの漂う場所に住みたいと、インチョンに住むことを決心した。あちこち探そうち、この家に入ったとたん、「ここは自分の家だ」と直感した。家の構造が、幼いころの記憶につながっていたという。リフォームのため壁や天井をはがすと昔の日本の家屋の構造が現れてくる。天井の梁に貼られていた京城日報から90年前に建てられたことがわかった。

それから彼女はこのあたり一帯に日本の建築の痕跡が至る所に残っていることに気づいた。ちょうど漢陽大学建築学部におられた富井正憲教授に相談し、「日式住宅再生プロジェクト」がスタートした。仁川市中区庁の「近代景観補助金事業」の補助金を受け、費用の一部に充てることができた。



古い骨組みと赤い補強の模型

韓国では2005年から外国人地方参政権が認

められた。30年以上住む戸田さんは、投票もできるようになり区の協議会などでも意見を求められるという。彼女の提案は、まちおこしに大いに役立っているようだ。彼女は、「この家は私が来るのを待っていたのだ」と言う。

## 仁川・旧租界地ぶらり

25日(日)朝食の後、戸田さんが周辺を案内してくださった。神戸のように海岸から高台



旧租界地に再現された日本家屋

の丘へ街が広がっている。通りが海岸と山に平行して階段状に作られている。ギャラリーのある通りは昔は仲町通といわれ、日本人の官吏たちの住宅が並んでいたところだ。そこからひとつ海側に下りた通りが本町通だった。銀行や領事館などが並び、官庁街だったという。その通りを歩いていくと昔の日本家屋が再現されている一角があった。大きな招き猫が両側に立っている。（表紙写真）



旧日本人租界の観光案内所の招き猫

また行くと、高台のほうへ登り階段がある。ここは日本人租界と中国人租界の境界だそう



中華街は観光客でたいへんな賑わいだ

で、右側は日本式の、左側は中国式の石灯籠が立っている。そのまま行くとチャイナタウンに入り、塀には三国志の人物が描かれ、街全体が赤々としてきた。散策路が山手に延び

ていて朝の空気が気持ちいい。散歩をしている人も多

い。高台一帯は西洋人の租界だったそうで、きれいな公園になっている。自由公園だという。展望台のところからインチョン港が一望に眺められ、晴れ上がった空と青い海に大きな船が見える。少し行くと銅像が立っている。「誰か分かりますか」と戸田さん。私はえーっと見上げる、なにやら見覚えが……「マッカーサーですか」。朝鮮戦争のとき仁川上陸作戦を敢行して、首都ソウルを奪い返したマッカーサーは英雄視されてきた。公園を下りてくる



自由公園に立つマッカーサー将軍の銅像

## チャンさんとの再会



質問に答えてくださるチャンさん

朝10時前にチャンさんが到着された。私はもう何十年ぶりかの再会だ。同じ年代のはずだが快活で若々しい方だ。この年齢になると元気だと思っ

た時に、このような機会が与えられた。チャンさんと会長は、韓国全羅北道・裡里（現益山）での幼なじみだ。会長の韓国での少年時代を知っている友人がほとんどいない。唯一彼が、小学生時代から生涯にわたっての親しい友人である。会長の人生において、チャンさんとその家族、特にお母さんは、ことばにできないほど温かい存在だったのではない。だれでも自分に家族がいなくても、チャンさんのような友人や家族が身近にいることによって、力づけられ生きる力がわいてくるのではない。朝鮮戦争のさなか国が混乱し、誰もが自分が生きていくのに精一杯だった。会長はそのころ母を亡くし、家族と離れひとりぼっちになっていた。

チャンさんと知り合うきっかけはやはり「本」だった。1950年代の韓国では、子どもが読む本はどこの家庭でもあった訳ではない。彼の家は少し裕福で兄弟が多く彼が末っ子のためその頃としてはいろいろな本があった。あるときチャンさんが同級生の友だちに貸した本を会長が持っているのを一緒に遊んでいて見つけた。会長はその友だちから借りて持っていたのだ。それがきっかけだった。

「そんなインボンさんをどう思いましたか？」と聞くと、貧しさはひと目で分かったけれど、子ども同士は純真で、遊び相手だった。家によく連れて行ったという。そんな時、オモニ（お母さん）が「ごはん食べた？」と言って食べさせ、兄さんたちも「来たか」と声をかけてくれた。少年向けの小説や雑誌がたくさんあったので、借りては読み、行っては読みふけたようだ。

会長はこの頃のことをよく話していた。寄る辺ない境遇の中で、唯一心身ともに安心して、本の世界をとおして知識を吸収していった。本を読むとき主人公と同化し、夢を描くことができたのだ。

◆ 今回の旅を通じて、さまざまなエピソードなども聴くことができた。会長はどんな境遇にあっても夢を持って生きた。その原点を知ることができたのだった。



話を聞き終えてギャラリーの前で

# La strage di Parigi

イタリア語翻訳者 Matteo Savarese (マッテオ・サヴァレーセ)

I fatti avvenuti a Parigi nel novembre 2015 sono una grande tragedia che ha colpito tutti. Tuttavia, pensando al futuro, non è solo la possibilità di nuovi attentati che mi turba, ma anche i commenti di giornalisti, politici e gente comune che ho visto su telegiornali italiani e social network. Ho la sensazione che da più parti si senta un desiderio di vendetta, e di punire la violenza con la violenza.

Personalmente sono d'accordo che i responsabili di questi crimini vengano puniti, e credo che in certi casi, come in questo, la guerra possa essere un giusto strumento per proteggerci da ulteriori tragedie future. Però credo che anche nella guerra e nella violenza utilizzata per punire ci debba essere giustizia, altrimenti ciò potrà solo portare ad altra violenza. Ho la sensazione che in questi giorni molti europei sentano l'Islam stesso come nemico, e vedano tutti i musulmani come potenziali nemici.

Io credo che però che i terroristi dovrebbero essere considerati un'organizzazione criminale e colpiti in quanto tale, e che si debba fare una distinzione tra la religione musulmana e questo tipo di crimini.

Mi ha colpito anche il fatto che la reazione del governo francese sia stata quella di ordinare un bombardamento a tappeto della città di Rakka, capitale dell'ISIS, come rappresaglia, e che molti miei amici di Facebook abbiamo condiviso gli articoli che parlano dell'attacco, ricevendo a loro volta molti "mi piace". Eppure Rakka è una città di 200,000 abitanti, e non può essere abitata solo da terroristi.

Sicuramente, come è stato detto, gli attacchi sono stati mirati ai campi di addestramento, ma si sa che i bombardamenti aerei hanno sempre causato innumerevoli vittime civili.

Di certo non si poteva rimanere senza far niente, ma credo che una lotta seria contro questa organizzazione terroristica sarebbe potuta consistere ad esempio in una spedizione militare via terra, piuttosto che in un bombardamento aereo.

Certo ciò avrebbe comportato rischi per i militari impiegati, ma credo che questo sia l'unico modo per debellare un nemico senza coinvolgere altri innocenti.

Se poi non fosse possibile, per vari motivi, inviare l'esercito, ci si potrebbe allora forse limitare all'incremento delle misure di sicurezza interne.

A me pare che l'opinione pubblica europea sia spesso insensibile di fronte alla gravità rappresentata dalla presenza di vittime civili d'altra, e credo sia anche da questa insensibilità che nasca l'odio, causa di questa violenza.

Non voglio giustificare il terrorismo. I responsabili dei recenti fatti sono dei criminali e vanno puniti. Se necessario, anche con la forza. Però punire non basta a garantire la pace. La pace verrà quando anche noi saremo rispettosi degli altri. L'odio non nasce per nulla, e non si può non collegare il recente proliferare del terrorismo con la politica spesso scellerata che l'Occidente ha perpetrato in Medio Oriente. Quanti bombardamenti sulla gente civile sono stati attuati negli ultimi decenni sulle città del Medio Oriente, quante guerre sono state dichiarate per motivi economici o di supremazia?

Credo che ora, che la situazione sembr sfuggire di mano, se vogliamo garantire la pace non dobbiamo pensare solo a punire gli artefici di questi attacchi terroristici, e a diventare noi stessi violenti come il nostro avversario, ma anche a compiere noi stessi una qualche autocritica.

## パリのテロ事件

2015年11月のパリのテロ事件で、世界の人々が衝撃を受けています。しかし、将来を考えると、不安な気持ちにさせるのは、これから起きる可能性のあるテロだけではありません。イタリアのニュースとソーシャル・ネットワークで見た、いろいろなジャーナリスト、政治家、一般市民の感想もそうです。イタリアのテレビやインターネットなどを見たら、多くの人々の心には、復讐と、暴力を使った処罰の欲望が生まれているような印象を受けました。

最近のテロ事件の首謀者は処罰すべきだと、私も思います。このような事件が起きると、自分の国を守るために、戦争もい手段になるのではないかと、私も思います。

しかし、テロリストを処罰するために、戦争と暴力を使おうとしても、ある程度の正義は忘れてはいけません。そうしなければ、暴力はまた新しい暴力に繋がってしまいます。最近の出来事で、多くのヨーロッパ人は、テロリストというより、イスラム教自体が自分の敵になったと思っているようです。

私が思うには、テロリストは犯罪組織として処罰する必要がありますが、その組織と一般のイスラム教とイスラム教徒を区別する必要もあります。彼らを私たちの敵にはいけません。

フランス政府は、対策として、IS (イスラム国) の首都と思われるシリアの町ラッカの空爆を命令したそうです。私のフェイスブックのページを見てみたら、知り合いの中では、その攻撃についての記事を共有した人が多く、しかもその記事でたくさんの「いいね」をもらっているようです。しかしラッカは、人口20万人の町です。住んでいるのは、テロリストだけではありません。

空爆の目標は、テロリストが訓練している施設だったそうですが、今まで行われた空爆では、必ず何の関係もない一般市民が巻き込まれました。今回もそうではないでしょうか？

もちろん今回のような事件では、何もしないわけにもいかなかったのですが、もし真剣にテロ組織と戦うなら、空爆をするより、陸上の軍隊を送るほうがよいのではないかと思います。

もしそうしたら、自分の軍人が抱えているリスクも増えると思いますが、他の一般市民を巻き込む可能性が減ります。

もし陸上軍隊を送るのが難しいなら、国内の安全対策を増やすだけにしても十分なのではないかと思います。

遠い国の一般市民が空爆に巻き込まれて死ぬことに対して、多くのヨーロッパの人々は鈍感だと思います。この鈍感さのせいでまた空爆された民族からの自分に対する憎しみを増やしてしまうような気がします。

今回のような事件の首謀者は犯罪者として処罰する必要がありますが、処罰しても、平和が成立するとは限りません。平和を成立させるためには、世界の人々に対する配慮も必要だと思います。憎しみというのは、なんらかの理由で生まれるはずで、最近のテロ事件の増加も、この20年間先進国が中東で行った戦争と関係があるのではないかと思います。石油を目指した戦争では、どれだけの一般市民が空爆で死んだのでしょうか？

全ての状況がコントロールできなくなりそうな現在、もし将来の平和を成立させようとするなら、暴力を使ってこの事件の首謀者を処罰するだけではなく、我々自身も、自分たちが行ったことについても反省する必要があるのではないのでしょうか。



# 社員BLOG <http://blog.kbsjapan.com/>

2015

日頃感じたことを書き綴っていますので、どうぞお気軽にアクセスしてみてください。  
今号でもいくつかをご紹介します。

## 豆まき

上間 行洋

02.04

今朝、通勤途中の道々で、豆がつぶれて黄色く路面にへばりついているのが目についた。そうだ、昨日は節分だった。最近では節分と言えば「恵方巻」を連想する人は多いと思うが、豆まきをする家庭も、まだそこそこあるのだと感心した。豆まきで思い出したのが、昨日の宅ファイル便のメルマガ第0538号に、次のような「いちびり川柳」が出ていた。  
「ティッシュ敷き そつと豆のせ 鬼は外」  
確かに豆まきというのは、「福は内、鬼は外」と威勢よく豆をまくが、あとの始末が大変である。特に「福は内」でまかれた豆は、家の中のどこに転がっていくかわからないので、数日してから思わぬ所で発見することもしばしばあります。なので、この川柳の作者の気持ちは大変よくわかります。これを見た私が、家で家族にこの川柳を披露したためか、昨日の我が家の豆まきは「福は内」の豆をザルに投げ入れるようにしたそうです。一何ともよう言わんは一さて節分も過ぎ、今日は2月4日「立春」に当たります。そのせいか、こここのところ寒い日が続いていたのに、今日は陽射しも良くポカポカと暖かく感じます。昔の人が今日を「立春」と決めたのは、まんざら根拠のないものでもないのかな……と少し感心する。寒がりの私は、この暖かい日が続いてくれるように祈ります。

## 中国人観光客殺到、「京都陥落」 呂 咏 鴻

最近出かけると至る所中国人観光客だらけですね。右の写真は先週末の上海市地方朝刊「新聞晨报」に載った新聞記事の写真です。これが中国国内の多数のメディアとインターネットに転載されました。中国語のタイトルは「这真是日本?——清明节期间京都“沦陷” 中国游客挤爆清水寺景区」です。日本語に訳すと、「ここは本当に日本なのか? 清明節に京都は『陥落』 中国人観光客は京都清水寺地域に大挙押し寄せる」です。

実は円安とビザ緩和によって、旧正月から中国人観光客が殺到しました。旧正月の次は、お花見シーズン、このような状態はたぶん中国の5月1日メイデーGWまで続いていくだろうと聞きました。旧正月だけで45万人の中国人が日本に入学し、60億人民元(1140億円)を消費したそうです。前年より激増しました。

先月日本でお花見をする中国人観光客が急増したため、上海日本領事館のビザ用紙が不足するというニュースがありました。最近、東京や大阪の各ホテルはベッド数が足りなくなっているそうです。いろいろな報道と統計数字を見れば、今年の日本の旅行業界は予想より早く目標を達成すると見込まれていますね。もう一つ面白いことは、中国人観光客が日本へ殺到したことによって、新しい言葉も出て来ているようです。例えば、爆買い、爆宿、爆花見……。

中国のネット上ではこの現象に対して色々な意見が出ていますが、その中の一つとして「俺たち庶民とは関係ない話。海外旅行で消費できるのは一部の富裕層だけ」というのが挙げられています。でも……いいことです。これからも来てほしいですね。(笑)

04.09



## CSS3 備忘録

横澤 寅男

CSS3になってからホームページをコーディングする時、それまでは画像を使って表現していたことが、スタイルシートだけでできてしまうといったことを、以前も書いたと思う。

画像を使わなくても表現できるグラデーションをかけたり、影を付けたり、角丸にしたといったことは、CSS2の時代にも使用したことがあったので、記述も比較的簡単に覚えられたのだが、それがパターンだったりすると、頭がこんがらがってしまう。綺麗なパターンでも、複雑になればなるほど記述も大変だ。

そんな時はあらかじめ作って置いて、いつでも見れるようにしておけばいいですね。

05.12

07.06

## 七夕の願い事

松本 佳代子

KBSのブログに、娘の短冊を載せて早や3年。今年の願い事は…

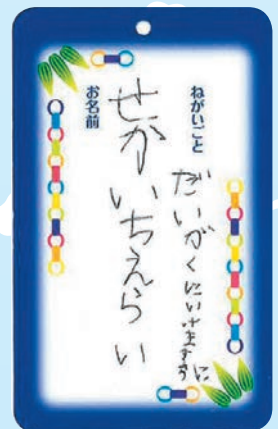
「せかい(い)ち えらい  
だいがくに いけますように」  
…ほんまかあ?

世界一の「い」が抜けて行けるかあ?

縦書きの時は、右から左に書くこと

知らんかっても行けるかあ?

まあ、11年後に期待しておきますね…(笑)



# 05.14

## 母校の新校舎竣工式に参加 高 允 男



去る5月9日(土)に、私の母校である白頭学院建国幼・小・中・高等学校(以下建国)の新校舎竣工式に参加してきました。

建国は、大阪市住吉区にある、数少ない韓国籍の民族学校で、終戦間もない1946年に創立されました。学校について詳しくは、公式サイトに掲載されているので、そちらをご覧ください。

式典は、伝統芸能部の学生たちによるパフォーマンスにて幕を開けました。このパフォーマンスが部活動とは思えないほど素晴らしかったです。

また、式典が終わってからは授業参観があり、久しぶりに学生たちの授業を参観しました。モニターやインターネットなどを駆使して授業をしていたのが印象的

です。靴箱に生徒の名前があったのですが、半分ぐらいは日本の名前で、民族学校なので通名を使わないことを考えると、半数は日本人や、韓国人と日本人のダブルなど、時代の流れを感じました。

また、展示室には新校舎竣工を記念した銅板が飾られており、そこには私の父である高仁鳳の名前もありました。彼が生きていてこの光景を見たらさぞかし喜んだことでしょう。



# 10.14

## 生まれ変わる「桃谷駅」

林 芳 子



KBSの最寄駅は大阪環状線桃谷駅だが、先日行ったとき、美しい桃の花のポスターが目をついた。大阪環状線改造プロジェクトの一環で、平成28年夏までには桃谷駅が一新されるという。

コンセプトは「桃谷成蹊」。「桃李成蹊」という中国の故事からなぞらえたそう。桃や李(すも

も)は、その美しい花に魅せられて自然に人が集まり、その下には自ずと道(蹊)ができる。転じて徳の高い人の下には、その徳を慕って自然に人が集まるという意味だ。

桃谷駅は、隣の鶴橋駅に比べあまり目立たない存在だ。環状線が最初に開通したのは玉造駅から天王寺駅までだが、そのちょうど中間に1895(明治28)年、「桃山駅」ができた。駅のある上町台地東側の丘陵地帯には、昔から桃の木がたくさんあったという。1905(明治38)年、奈良線に桃山駅ができて、「桃谷駅」と改称された。鶴橋駅ができたのはずっと後の1932(昭和7)年だ。

近辺はいにしえから拓け、大阪市内で現存する唯一の御膳山古墳もある。駅の改札口からそのまま出て行くと、左側(東方向)のほうには、5つの商店街が繋がっているなが〜い商店街が続く。それを抜けていくと「つるのはし跡」の碑がある。日本で最初につくられた橋とかで、今は川(百済川、現 平野川)は付け替えられ記念碑が整備されている。駅の西側には豊川稲荷別院が建っている。ここは古代には百済寺があったといわれ、現在「堂ヶ芝廃寺跡」という石碑が立っている。

桃谷駅界隈は、スーパーや商店が充実していて生活しやすく、子育てにも、病院通いにも便利なところだ。プール学院、夏の高校野球大阪代表になった偕星学園(旧此花学院)、夕陽丘高校、大阪ビジネスフロンティア高校、通信制・単位制の桃谷高校なども駅から歩いて10分以内だ。大病院も多く、NTT西日本病院、大阪けいさつ病院、大阪赤十字病院などが徒歩圏内にある。ちょっとショッピングに出かけたいとき、天王寺や梅田、なんばにもアクセスがよい。朝夕は通学の学生たち、昼間は通院やお見舞の方たちの利用者が多い。

その利便性が買われて、駅の周辺は、高層マンションの新築が相次いでいる。高齢化が進む中にも若い層の人々が入り、すぐ売り切れになるようだ。最近観光地としても、桃谷駅から歩いて行けるコリアタウンが人気を呼び、土日ともなるとたくさんの人々が訪れる。生野区ではコリアタウンと鶴橋駅と桃谷駅を結び、「いくのトライアングルタウン」と銘打ってマップをつくって宣伝している。

「桃谷成蹊」——多くの人が行き交う——どんな姿を見せてくれるだろうか。



# 11.02

## 和歌山九度山町へ キャンプに行っ て来ました。

稲木 隆文

キャンプのベストシーズンは夏ではなく涼くなった秋!というわけで、和歌山県九度山町の「どりーむびれっじキャンプ場」に行ってきた。

河内長野市より車で1時間、橋の対岸にあるドーム型の建物が管理棟です。空いていたので管理人さんのご厚意により1番広い場所にテントを張らせてもらいました。

渓流釣りにも初挑戦しましたが1匹も釣れませんでした。やはり渓流釣りは難しいですね。

夜はたき火で暖をとりながらゆったりした時間を楽しみました。

キャンプ場で問題となるお風呂はシャワーが無料で使え、おトイレもキャンプ場とは思えない程きれい、照明類も全てLED化され、Wi-Fiも繋がるハイテクぶりに感動しました。

機会があればまた訪れてみたいキャンプ場です。

# 11.06

## 80年前の環状線

### 「てらだちよう」駅 李 秀 泰

本ブログの「生まれ変わる「桃谷駅」」にも書かれているが、JR大阪環状線では各駅のリニューアルが進んでいる。そんな中、桃谷と天王寺の間にある寺田町駅のホームでは、古い木製の駅名表示板が発見され、関心を集めている。改装工事中の8月28日、広告看板を外したところ見つかったもので、発見直後、私はそれとも知らず、ホームのいつもの場所で立っていた。鉄道マニアのカメラの先を見ると、ひらがなで大きく「てらだちよう」と「よ」は大きく、「天王寺区」は「區」と旧字体で手書きされていた。それは誰が見ても時代がかった。

ネットで調べてみると、「寺田町駅付近は駅開業に伴って高架化工事が行われ、当時の構造物が今も使用されている」「左書きの表記は昭和初期には広まっていた」「寺田町駅付近は空襲の被害を受けていない」などの点から、1932年の寺田町駅開業時のものではないかと見ている。(ホームページ「THE PAGE」)。驚きのJRでは、貴重な鉄道遺産として、寺田町駅が、来春開業の京都鉄道博物館での保存を検討しており、鉄道ファンならずともそう願うところだ。環状線は昔も今も私の足として最も近い存在だ。80年以上も前から駅を守ってきた表示板が思わぬ形で光を浴び、駅を乗降する人々をいま再び見守っているのだ。



場所は、JR大阪環状線「寺田町」駅、外回り2番線ホーム北側にある。



# 2015 妙見山ハイキング

営業企画部 上間 行洋

2015年4月18日、前年秋に続き  
今回も能勢妙見山ハイキングを行いました。



コースは昨年とは別のコースを選び、景色も風情もまた違った趣がありました。

参加したのは、ケイピーエス社員7名(女性3名、男性4名)と、社員の家族(奥様とお子さん2名)の10名でした。

午前10時頃に妙見口駅で集合。遅れる人もなく、ここからハイキング組とケーブルカー組に分れて頂上めざして出発しました。ハイキング組は大人6名と子ども2名、あとの女性2人はケーブルカーで頂上を目指す。

今回のコースは、登り一辺倒ではなく、登ったり下ったり、平坦だったり、沢渡りがあったりと、昨年のコースよりも変化があり、疲労の蓄積が緩和される気がしたが、ハイキングとは言え山を登る訳なので、さすがに年寄にはかなりこたえました。

山頂が近くなると、どこがフィニッシュ地点なのか、後どれくらいで到着するのか、そればかり気にしながら、ハァーハァー、ふうふう、ゼイゼイで、何とかたどり着いたというのが正直なところ

ろでした。

しかしながら、登り切ってみると近辺の山々が一望でき、大阪近郊にこんなたくさんの山があったのかと驚くほど周りは山々に囲まれていました。そして日頃町中で生活していると、想像もつかない風景がそこにはありました。まるで登り切ったことへのご褒美のような素晴らしい景色です。この爽快感こそが山登りの醍醐味だったということ思い出しました。

ここでケーブルカー組と合流し、それぞれの見た景色や歩いて登った感想を話し合いながら、今回は能勢妙見堂は参拝せずに、お昼ごはんのパー

ベキューテラスへ直行しました。ちょうどお腹も程よくすいており、ビールと焼肉をいただきながら、わいわいと楽しく盛り上がりました。



そのあと、前回は時間が無くて割愛された“足湯”にも全員で行った。ゆったりと足を浸しながら目の前に広がる雄大な景色を眺めつつ、みな感激しながら和やかな時間を過ごしました。

ここから全員でケーブルカーに乗り、黒川駅ま

で下り、車で来ていた4人家族とはここで別れ、あとは歩いて妙見口駅まで戻りました。

結構疲労感はありませんでしたが、楽しい一日となりました。



## 文字って面白い

総務部 松本佳代子

実は同じタイトルで2005年のナルゲにも記事を書いたことがあるのです。当時は独身。10年の間に結婚して、子供もいます。お局のポジションにも慣れてきました(笑)。

娘(小学校1年生)の教科書に掲載されている文字のできかたを見つけて、「おお、そうなんだ。」とついつい読み入っていると、「お母さん、その漢字知らんの?」と聞かれてしまいました。いや、漢字は知ってるけど、こういう意味のできたことまでは…と、誤魔化す母。30年前の教科書の内容まで覚えていませんが、こんなこと書いてあったかな?



翻訳部 呂 咏 鴻

在上一期的社内报上我写了《重回志愿者活动》的文章。2014年夏天，我重新回归了NPO市冈国际教育协会日本語教室の志愿者活动。2015年10月4日市冈日本語教室举行了20周年纪念典礼。我也去参加了。《市冈日本語教室20周年纪念册》(照片1)登了我写的投稿文章(照片2)。照片据说是理事从过去的照片中随便选了放进去的。“呃，这是啥时候的照片？”“啊，下面的是2008年七夕节活动时我试穿浴衣接受采访时候的照片呀”我很惊讶。2008年时候的我是这样的啊……(笑)。看到上方的“2007年~”，我想起了今天正好是我来日8周年纪念日。我是2007年10月4日第一次来到日本次月就开始参加市冈日本語教室的。现在市冈日本語教室也已走过了20周年，算一下正好是20年前阪神大地震那时开始发起活动的志愿者组织。20年、8年，弹指一挥间。光阴似箭，时过境迁。

最近，我常常闭上眼睛脑海中像放纪录片似的浮现出这些年我一路走来曾经经历过的一幕幕情景。初次踏上日本、升学、学习、打工、社交、旅游、毕业、受挫折到重新振作站起来、就职、工作、恋爱结婚、在日本平稳过着家庭生活……。如今已是来日第九个年头。进入KBS工作也已经进入了第5个年头。岁月如流水一般，日复一日，年复一年，过得真快啊！以前，我看大人们时总觉得自己离那还遥远吧，可是，就在近日，我儿子降生了，发现自己也在不知不觉中当上了爸爸。人生由此翻开了新的一页。

今后，我要更加肩负责任感地去努力生活了。当然，会很辛苦，也一定会伴随着欢乐吧！



(写真1)



(写真2)

前回のナルゲで私はボランティア活動復帰という記事を書きました。2014年夏、私はNPO市岡国際教育協会日本語教室のボランティア活動に復帰しました。2015年の10月4日に市岡日本語教室が20周年記念式典を開催しました。私は式典に行きました。「市岡日本語教室20周年記念誌」(写真1)に私の書いた記事及び写真が載っています(写真2)。写真は理事が勝手に過去の写真から探して入れてくれたそうです。「えっ、この写真いつの?」「あ、下は2008年七夕祭りイベントに私が浴衣を着てインタビューされたときの写真だ」と驚きました。「2008年の私はこうだったのか…(笑)」。「2007年~」を見たら、あっ、ちょうど私の来日8周年記念日だ、と気づきました。私は2007年10月4日初来日して翌月市岡に参加し始めたのです。今の市岡日本語教室も20周年歩んできたので、計算すればちょうど20年前阪神大地震の時点から発足したボランティア組織ですね。20年、8年、あっという間に。光陰矢のごとし。時が移り事情が変わる。

最近、私は目を閉じたらよく頭の中でドキュメンタリー映画のようにこれまで経験したいろいろなシーンがよみがえります。初日本上陸、進学、勉強、バイト、社交、旅行、卒業、挫折から立ち上がって、就職、仕事、恋愛結婚、日本での家庭生活…。今は来日9年目です。KBSに入社して5年目に入りました。歳月は流れる水の如し。一日一日、一年一年、速いですね。昔、私は親たちを見て自分はそこまでまだ遠いと思っていましたが、最近私の息子が産まれたことで自分も知らず知らずになんと親になりました。また人生の新しい1ページをめくりました。

これから、もっと責任を持って頑張っていかなければなりませんね。もちろん、大変な苦勞もあれば、楽しみもきっとあるでしょうね。

## 그리운 온돌의 겨울

翻訳部 柳 美 善

저는 일본에 온지 12년이 됩니다. 올해로 12번째 겨울을 맞이합니다. 매번 이 곳에서 느끼는 일입니다만 겨울이 오고 또 점점 더 추워지면 제가 자란 부산이 그리워지곤 합니다. 왜냐하면, 처음 일본에서 겨울을 보내며 제가 느낀 소감은 일본의 겨울은 ‘춥다’라는 사실입니다. 다들 아시겠지만, 한국은 온돌이라는 것이 있습니다. 바닥난방으로 방 전체가 따뜻해지는 난방시설을 말합니다. 이 온돌덕분에 한국에서는 비교적 쾌적하게 겨울을 보낼 수 있습니다. 하지만 일본에서는 그럴 수가 없다는 거지요. 물론 전기 장판과 같은 난방기구는 한국보다 오히려 일본이 더 많지만요.

일본에는 옛날부터 절약하는 풍습이 있다고 들었습니다. 제가 알고 있는 절약 기구의 대표적인 것이 바로 화로입니다. 따뜻한 화로불에 두 손을 쥐고 몸을 녹이는 게 온돌 문화에서 자란 저에게는 보는 것만으로도 따뜻해집니다. 어떻게 사용하느냐에 따라 더욱 다양하게 사용할 수 있다는 이점이 있지요. 이런 걸 볼 때마다 절약이라는 면에서는 항상 감탄이 절로 나옵니다. 거기에 비하면 한국은 적은 에너지를 보다 합리적으로 이용해 보려고 꼼꼼하게 따져보고 절약하려는 모습들은 조금 보기 어려운 것 같습니다. 추워지면 우선 민첩하게 따뜻하게 보낼 수 있는 방법만을 생각합니다. 그것이 온돌이라는 형태로 나타난 것 같습니다.

겨울이 다가올 때마다 어딘가 그리움을 느끼는 것은 아마도 이 온돌에서 함께 지내온 가족들과의 시간들이 제 안에 굳게 자리 잡고 있기 때문이 아닌가 생각합니다.

## 懐かしいオンドルの冬

私は日本に来て12年になります。今年で12回目の冬をこの日本で迎えようとしています。これはいつも感じるのですが、冬に入って寒さが増していくにつれて私の生まれ育った釜山のことが懐かしく思えてきます。それはなぜかということ、日本で初めて冬を迎えた時に思ったことは日本の冬は寒いということでした。みなさんご存じのように、韓国にはオンドルというものがあります。床暖房のことで部屋全体が暖くなる暖房設備です。このオンドルのおかげで韓国では冬を比較的快適に過ごすことができます。ところが日本ではそういうわけにはいきません。たしかにホットカーペット等のような暖房器具はむしろ韓国よりもたくさんあります。

日本には昔から節約という風習があると聞きました。私の知っている限りではその節約の代表的なものが火鉢です。両手をかざして暖をとるというもので、オンドルの文化で育った私にとっては目にするだけでもこっちまで寒くなってきます。もっと工夫次第でいろんな使い方ができるという利点はあるようです。そういうのを知るたび、節約という面でいつも感心させられます。それに比べて韓国では少ないエネルギーでより合理的に暖くなるためにはどうすればいいかなんて細かく考えて節約する姿はあまり見られないですね。寒くなれば、まず手取り早く暖かくなることだけを考えます。それが形になったのがオンドルだと思います。

冬になるたびにどこか懐かしさを覚えるのは、このオンドルで過ごした家族との楽しい時間が私の中で支えとなっているからのような気がします。





**対馬野生生物保護センター ツシマヤマネコ**  
ツシマヤマネコは、一見普通の猫とどこが違うのか、パッと見はわかりにくいですが、その特徴を保護センターの方から説明していただいた。

KBSまだんの韓国語教室の旅行は、今年は韓国ではなく対馬に行ってきました。

対馬では、レンタカーで移動したのですが、想像していたより山が多いという印象です。宿泊地は巖原でした。古い街並みで思いのほか路地は狭く、レンタカーを借りる時に「軽にしますか?」と聞かれたのは納得です。街のいたるところに韓国語の表示がありました。それもそのはず、韓国人旅行者がすごく多かったのに驚きです。宿泊したホテルは、私たち以外は全て韓国人と聞いてまたびっくり。観光地ですれ違うのも韓国からの団体客が多かったです。

詳しい旅の様子は、ハングルネットのブログにまとめています。

<http://www.hangul-net.com/blog/?p=290>



**矢立山古墳群**  
教室の大野さんより古墳の特徴などを聞きました。



対馬空港

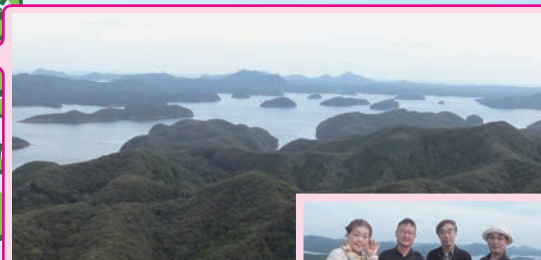
2015年  
9月18日(金)  
～  
21日(月)



**韓国展望所**  
天気が良かったので、韓国が見えるかなと期待したが、残念ながら見ることはできなかった。



**和多都美(わたづみ)神社**



**烏帽子岳展望所**  
天気が良く、展望所からの眺めは最高。360度ぐるりと海と島と山。



**宿泊地の巖原(いづはら)**  
川の欄干には朝鮮通信使の絵が描かれていた。右は対馬歴史民俗資料館にある石碑。



**【個人情報の取扱いについて】**

この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。  
ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。  
当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。  
当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直しと改善に努めます。

**年末年始休業日のお知らせ**

過ぐる年も格別のお引立てとご愛顧を賜り、まことにありがとうございました。  
年末年始を下記の通り休業させていただきます。  
新しい年も、なにとぞご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

**12月29日(火)～1月4日(月)**

1月5日(火)午前中営業、1月6日(水)より平常通り営業いたします。

**編集後記**

●編集長になって一番気になったのは原稿のことや表紙のことでした。眠れないわ～。毎年原稿の締め切りで苦勞するのをみてきたので、でも、感謝することに何とか原稿は全部揃って、組版したものや表紙を見た瞬間、とても感動しました。皆さん最善を尽くしてきれいに仕上げてくれたので感謝の言葉しか出ません。入社以来私が見た一番きれいな社内報に間違いありません。(笑) (柳美善)

●1992年、故高仁鳳会長は本誌「ナルゲ」を創刊した。社内報でありつつ、多言語組版の実験場でもあった当時の誌面には、その会長の多言語への熱い思いがふれている。同時に祖国、民族、民族教育への思いは、年を増すごとに強まっていったことが強く記憶に残る。会長の多言語を実現する世界、民族平和統一への思いを改めて噛みしめる。(sute)

発行日 2016年1月1日

発行/編集 ケイビーエス株式会社  
〒544-0033  
大阪市生野区勝山北2-16-17  
電話 06-6716-5665  
FAX 06-6711-2804  
E-mail info@kbsjapan.com  
URL <http://www.kbsjapan.com/>